

## 仏教の伝播

開祖とされるブッダ（ガウタマ＝シッダールタ）は、紀元前5世紀、または紀元前4世紀頃の北インドの王族出身（諸説あり）で、人は正しい道をおこなえば苦から救われると説く仏教を創始した。彼の死後、信徒たちが「お経」の編纂をし、紀元前後に大乘仏教が確立し、北インドのガンダーラ地方でギリシャ彫刻の手法を取り入れた仏教美術が盛んになった。仏教はシルクロードを經由して伝播し、日本へは朝鮮半島を経て6世紀に伝来したと考えられている。奈良斑鳩の地で法隆寺金堂壁画が7世紀末頃に描かれ、大陸で培われた様式表現をもとに、日本特有の洗練された仏教美術の表現へと醸成させた。

一方、修行者の仏教、上座部仏教は、スリランカから東南アジア大陸部へ伝わり、現在でもタイやミャンマー（ビルマ）で信仰されている。